

<第 184 回> 3月13日(木)

## 宮城県南三陸町はいま ～あの日を忘れない～

校長 神戸秀巳

長男が今年1月より宮城県北部の登米市で一人暮らしを始め、働いています。3月8日(土)に、私は小田原の自宅より自家用車で出かけ、隣接する南三陸町へ足を延ばしてみました。登米市は気仙沼市、栗原市、北は岩手県一関市などにも接しています。

東日本大震災による被害の状況について(南三陸町ホームページより)



- ・発生日時 平成23年3月11日(金)  
午後2時46分
- ・震源 三陸沖 深さ約24キロメートル
- ・規模 マグニチュード9.0
- ・最大震度 震度7(栗原市)
- ・南三陸町震度 震度6弱
  
- ・当日午後2時49分 大津波警報(津波6m)
- ・同午後3時14分 大津波警報(津波10m以上)
- ・翌日午後8時20分 津波警報
- ・13日午前7時30分 津波注意報

南三陸町の被害の状況(平成26年2月28日現在)

[人的被害]

- ・死者 619人(直接死599人、間接死20人)
- ・行方不明者 217人

※人口17,666人 5,362世帯(平成26年2月末)

[建物(住宅)被害]

- ・全壊 3,143戸(58.6%)
- ・半壊、大規模半壊 178戸(3.3%)

↑ 防災対策庁舎(◆)

[ライフライン(水道・電気)被害]

- ・水道 地震発生後、町内全域で断水。一部地区の仮通水(飲用不可)から復旧を開始し、平成23年8月中旬にほぼ全域を飲用可能として復旧。
- ・電気 地震発生後、町内全域で停電。平成23年4月中旬から復旧が開始され、同年5月末にほぼ全域で復旧。

- ・避難者 平成23年3月に消防団などによる最大状況把握 33避難所 9,746人
- ・公立志津川病院(5階建て) 避難者・入院患者347人(うち死亡・行方不明74人)
- ・仮設住宅 町内に多数ある他に、隣接する登米市に6箇所、486戸

◆南三陸町（旧）防災対策庁舎について

志津川町と歌津町が合併して南三陸町となる前の平成7（1995）年に、志津川町の町役場の行政庁舎の1つとして建設された。3階建て、地上12mの屋上に避難場所があったが、東日本大震災に伴う約14mの津波により、骨組みと各フロアの床、屋根などを残して破壊され、町職員と住民ら43人が犠牲となった。前頁にあるように、当初の津波予想は6mであった。



海近くのビル

鉄筋がむき出しとなり、中のものは流出



左地点のすぐそば

周辺の建物は破壊されて何もない



津波により破壊された防波堤



写真は全て志津川地区です

次に、南三陸町ホームページの文章(一部)を使わせていただきます  
「かざして募金 子どもたちの未来の希望 震災復興祈念公園整備プロジェクト」より

あの日、南三陸町防災対策庁舎からは、大津波が来る直前まで、「高台へ逃げて」との命の呼びかけが行われました。

この呼びかけで、1万人以上の命が救われましたが、町内の約6割の住宅3,000戸以上が流され、800人以上の方が亡くなりました。一瞬のうちに、肉親を奪われ、家を流され、当たり前にあった日常の幸せを失いました。いとなみやなりわいのすべてを失いました。町に残された膨大なガレキは、人々の希望や意欲を残酷に押し潰しました。町民は、無残な光景を前にただ茫然と立ちすくむしかありませんでした。そして、どれだけ泣いたのか覚えていないくらい涙しました。

10mを超える大津波により、市街地や集落は、ことごとく破壊され尽しました。

今も、約2,000世帯が仮設住宅で、772世帯がみなし仮設住宅での生活を強いられています。そのうち、町内では用地が確保できなかったため、多くの世帯が、慣れない町外での生活をしています。

生き残った者たちは、涙した無念と尊い教訓を伝え、これから生まれて来る子どもたちが、自らの命を守れるようにしていかなければならない使命があります。

■宮城県南三陸町のホームページはこちらからご覧いただけます

<http://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/index.cfm/1,html>



魚網の袋詰め作業(海のそば)  
奥にある魚網を白い袋に詰めています



前出のビルの道路向かい  
土がかなりの高さまで盛られています



## 「南三陸さんさん商店街」ご紹介

平成 24(2012)年 2 月に、南三陸町志津川地区の国道 398 号線沿いにオープンした仮設の復興商店街です。地元の事業者 30 店が軒を連ねています。「サンサンと輝く太陽のように、笑顔とパワーに満ちた南サン（三）陸の商店街にしたい」が名前の由来とのこと。



ある店舗の内部



イースター島から寄贈されたモアイ像

### ◆南三陸町に新たなモアイ像設置 イースター島から寄贈

[朝日新聞デジタル 平成 25 年 5 月 25 日記事より]

<http://www.asahi.com/national/update/0525/TKY201305250035.html>

東日本大震災からの復興の象徴として、チリ・イースター島から寄贈された新たなモアイ像が 25 日、宮城県南三陸町の仮設商店街「南三陸さんさん商店街」に設置された。高さ約 3 m の像の目には白サンゴと黒曜石でできた瞳がはめ込まれた。モアイの本来の姿という。

瞳をはめ込む儀式は、イースター島で像を造った石工が町を訪れて執り行った。町長は「モアイは後世に震災の記憶を伝承する象徴。多くの善意が詰まったこの像を、町民みんなで大切にしていきたい」と述べた。

1960 年のチリ地震の津波被害を受けた南三陸町には友好と防災の象徴としてモアイ像が置かれていたが、震災の津波で壊れた。昨年 3 月、来町したチリのビニェラ大統領が新たな像の寄贈を約束していた。



同じ 3 月 8 日（土）

宮城県大崎市（内陸部）の風景

<参考>

以前にホームページに掲載した「東日本大震災関連記事」です

- ◆「岩手県大槌町・釜石市を再訪して」 掲載日 平成 26 年 1 月 7 日  
<http://www.chigasakinishihama-h.pen-kanagawa.ed.jp/pdf/saijikiH260107.pdf>
- ◆「防災教育講演会を振り返る」 掲載日 平成 26 年 1 月 14 日  
<http://www.chigasakinishihama-h.pen-kanagawa.ed.jp/pdf/saijikiH260114.pdf>
- ◆「東日本大震災」を再び振り返る 掲載日 平成 24 年 9 月 9 日  
～私たちにできること、私たちがすべきこと～  
<http://www.chigasakinishihama-h.pen-kanagawa.ed.jp/pdf/saijikiH240909.pdf>
- ◆「想いを新たに」 掲載日 平成 24 年 1 月 16 日  
<http://www.chigasakinishihama-h.pen-kanagawa.ed.jp/pdf/saijikiH240116.pdf>
- ◆「絆訪問討論」（宮城県石巻市）に参加して 掲載日 平成 23 年 12 月 12 日  
<http://www.chigasakinishihama-h.pen-kanagawa.ed.jp/pdf/saijikiH231212.pdf>